

2023年11月

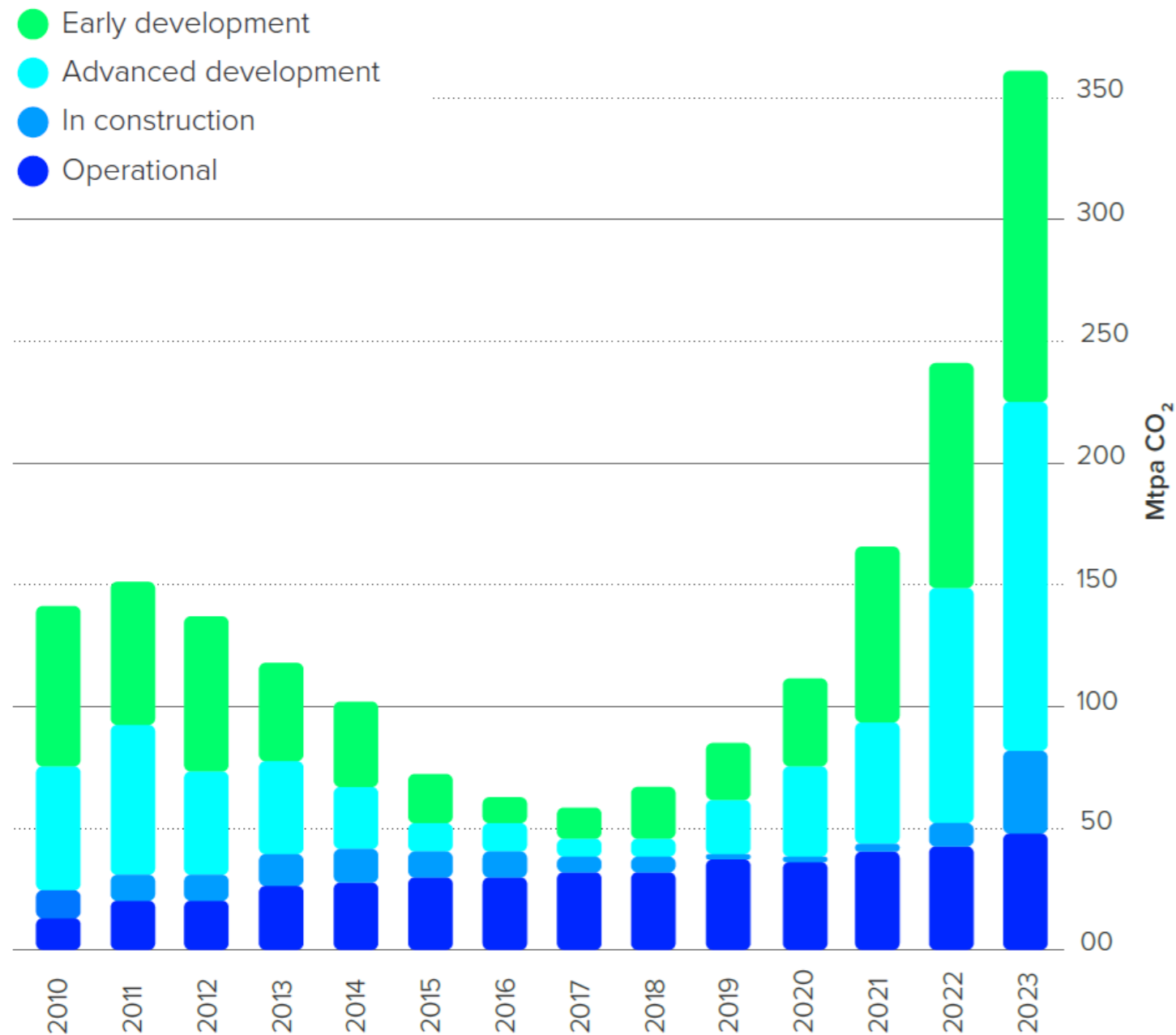
資料 8

GLOBAL STATUS OF CCS2023

CCS : 2030年までのスケールアップ

- CCSプロジェクトの開発数は過去6年間、前年比で力強い伸びを示しており、2017年以降は**年率35%以上の年平均成長率**を示している。
- 2023年7月現在、**世界全体で、392のCCS施設があり**、前年比102%の増加となっている。**41の施設が稼働中で、年間49百万トン回収・貯留する能力があり**、そのうち、351の施設が開発中である。
- 特に北米と欧州における力強い政策が成長を牽引してきた。
- CCSネットワークの開発が進むにつれ、「CO₂ 輸送・貯留」(T&S) という新たな産業カテゴリーが生まれた。
- 進展は心強いものではあるが、世界的な気候目標を達成するには、2030年までに約10億トン/年、2050年までに数10億トン/年をCCSによって貯留、削減する必要がある。
- より多くのプロジェクトが計画・開発から実行段階に進むにつれ、許認可、市民参加、プロジェクト管理がますます重要になってくる。

CCSプロジェクト・開発推移：急速な増加



4,900万トン

操業中の施設による回収・貯留量

建設中-3,200万トン、2億8,000万トンー開発中

総計-3億6,100万トン

41施設

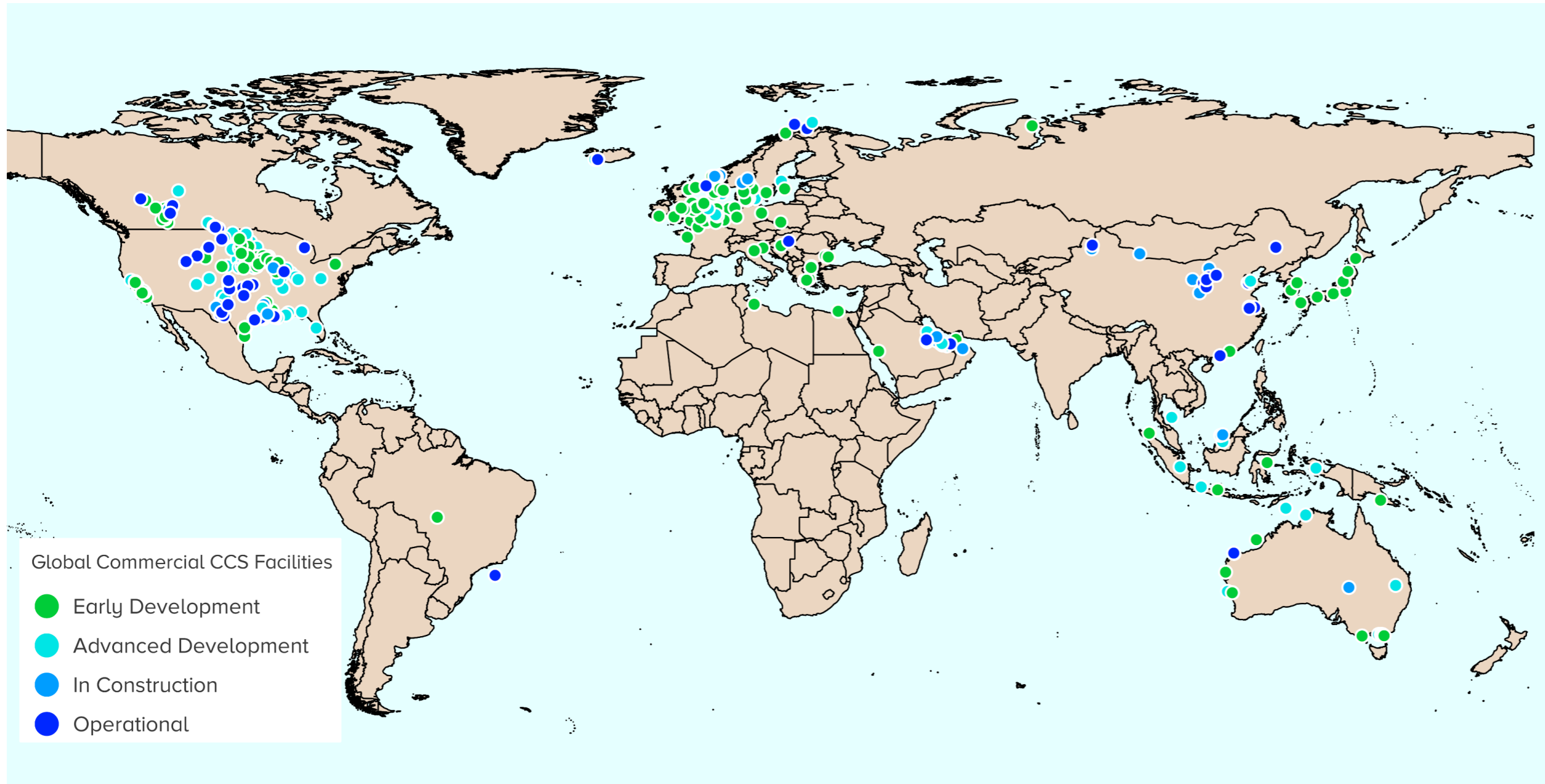
操業中

建設中-26、様々な計画段階-326

198施設

Global Status of CCS以降、追加された施設数

世界のCCS施設 - 2023年



41: 稼働

26: 建設段階

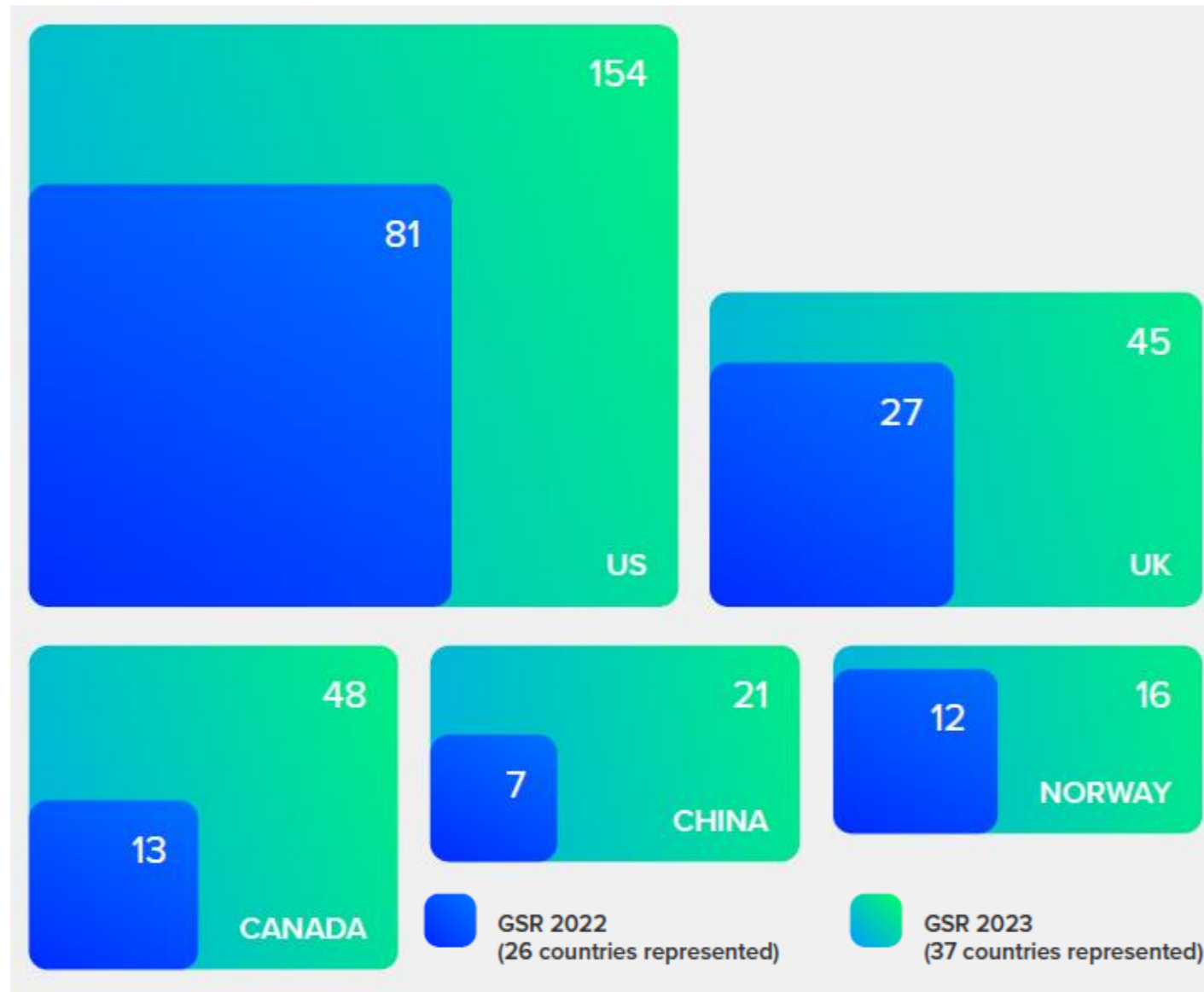
325: 様々な開発段階

102%

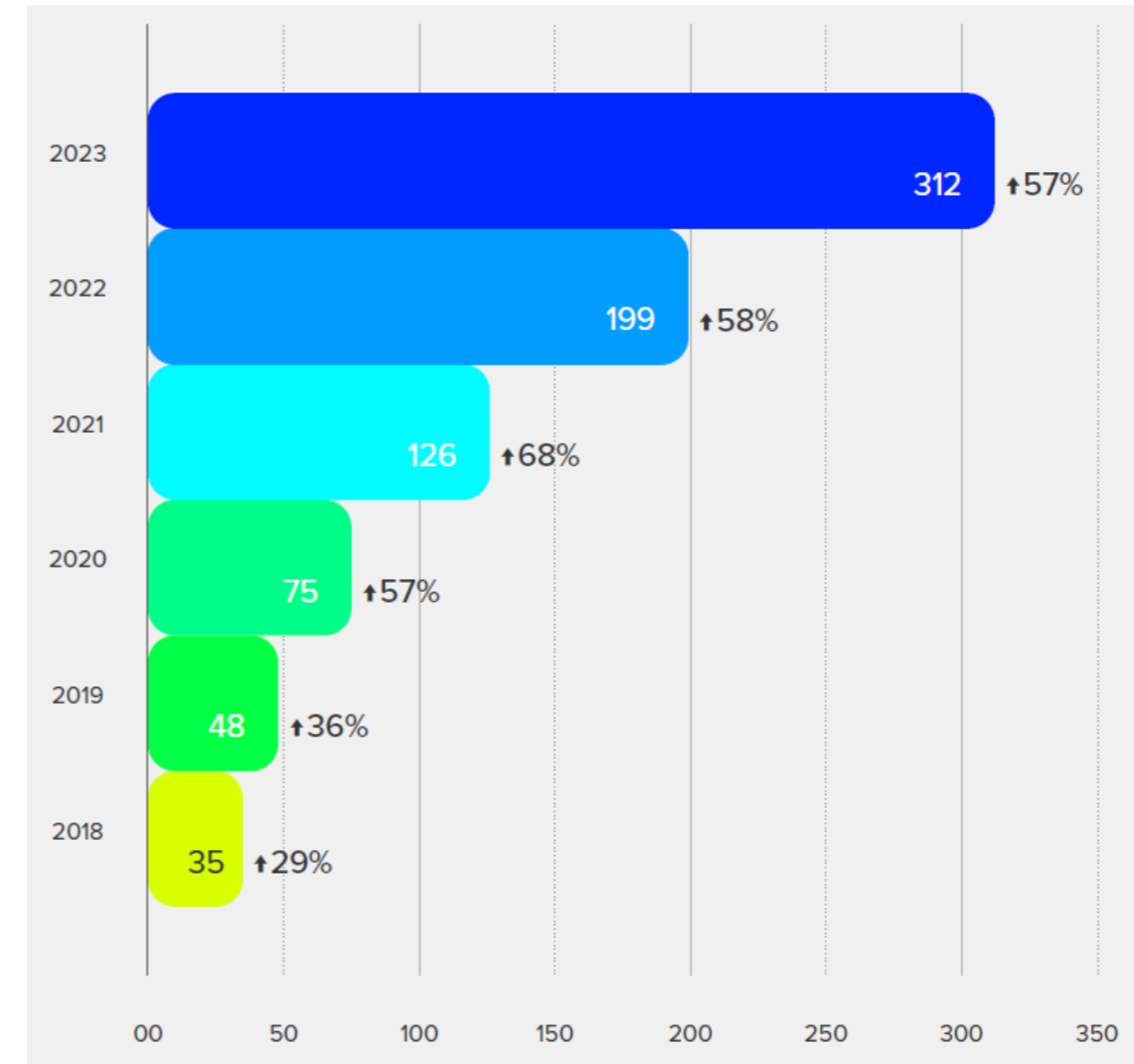
CCSプロジェクトの数が
前年比で102%増加

より多くの国でより多くのCCS施設

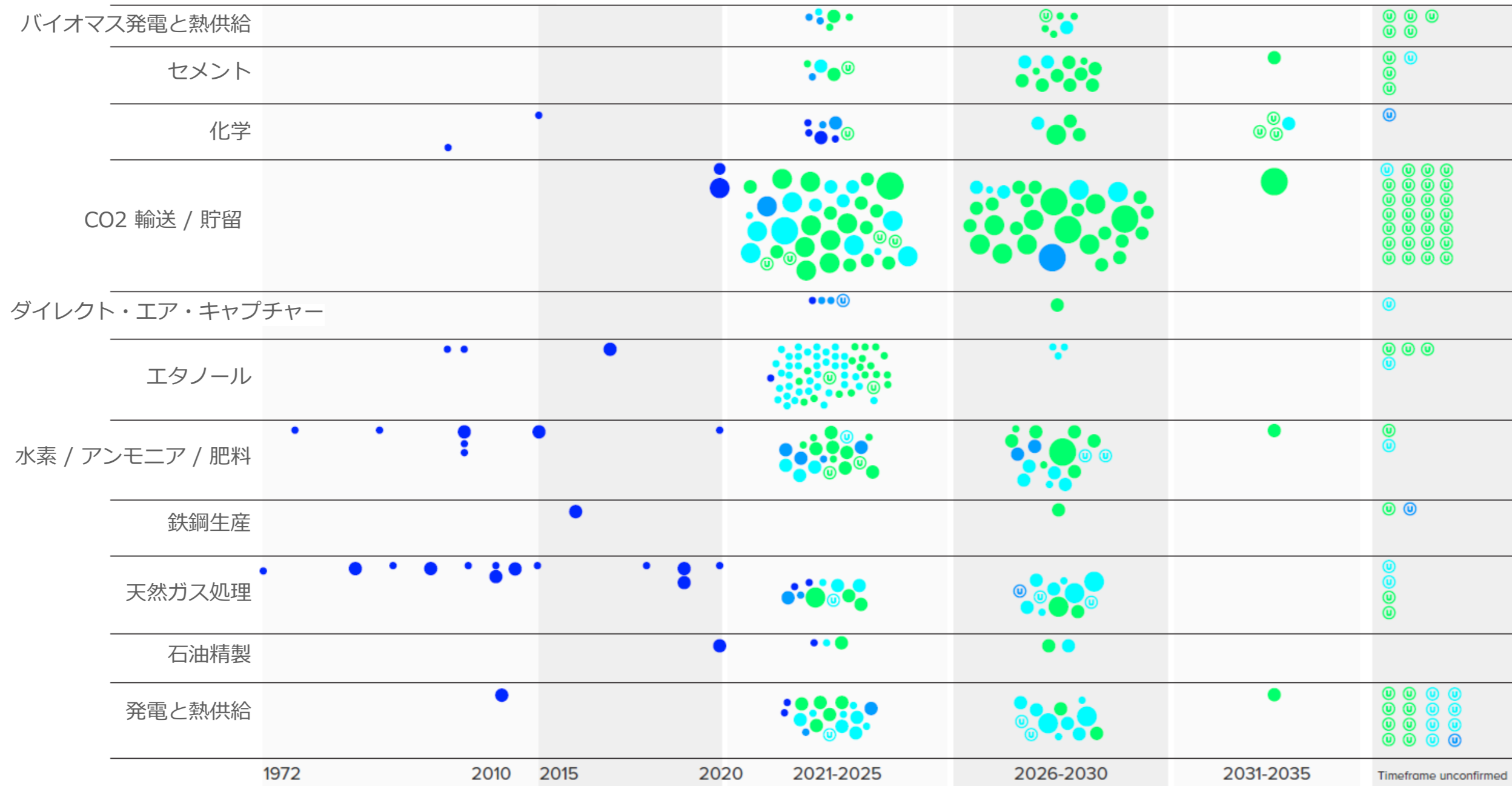
2022年から2023年にかけてのCCSプロジェクトの増加
(開発中～稼動中) : 上位5カ国

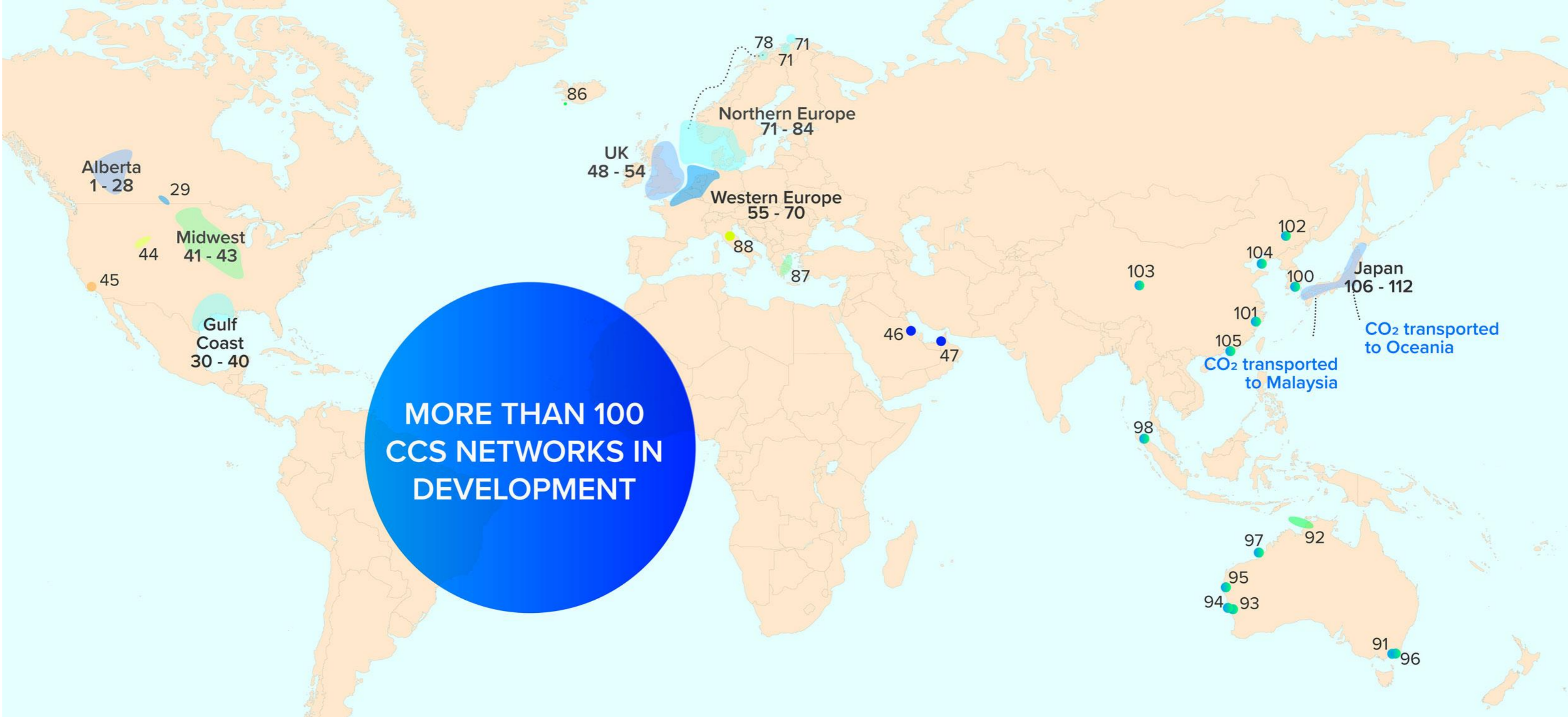


建設中および開発中のCCSプロジェクトの
回収能力 (百万トンCO₂)



業界を超えたCCSの応用

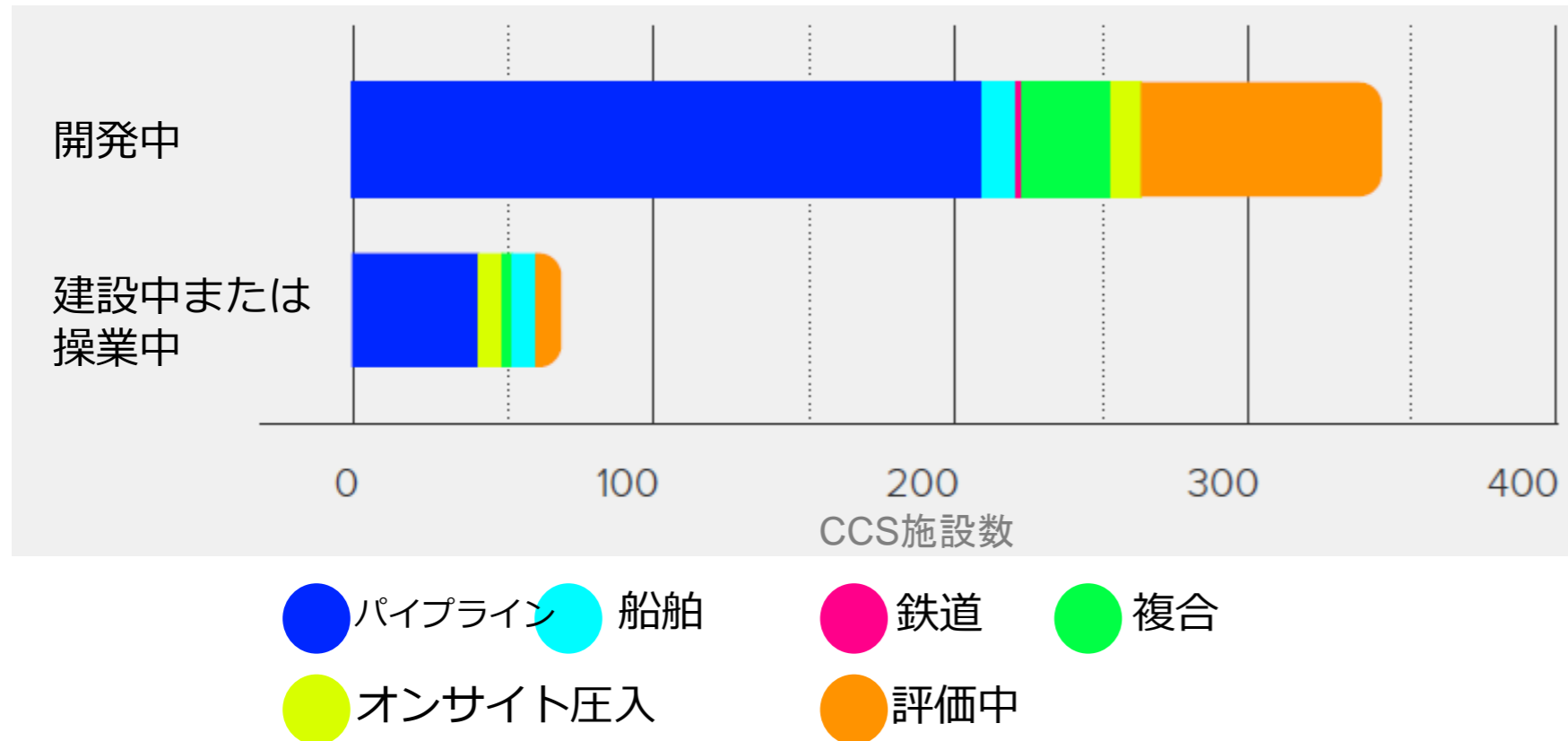




CO₂輸送・保管

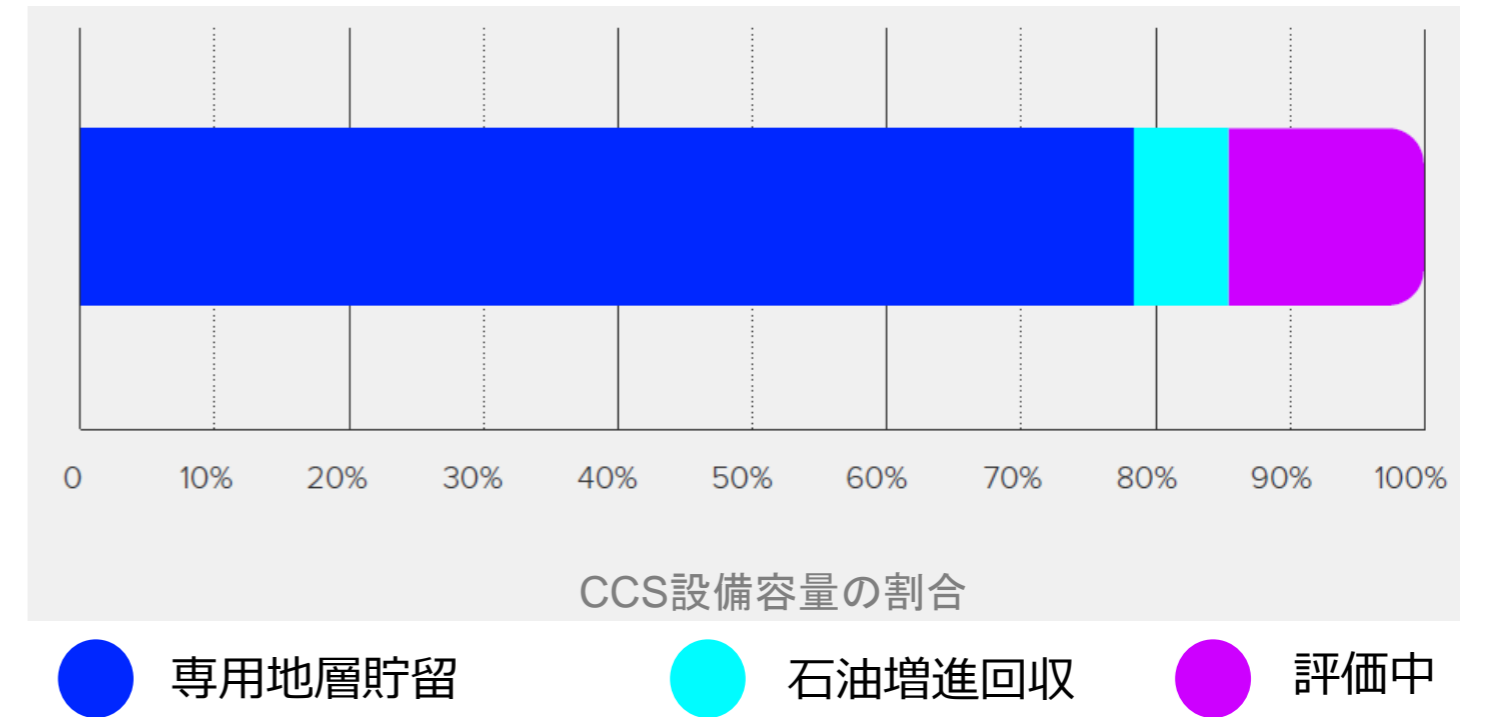
より複雑なCO₂ 輸送手段 – 選択肢の多様化

CO₂ 輸送モード別CCS施設



建設中および開発中のCCS施設の78%が専用の地下貯留層を使用

貯蔵タイプ別CCS施設容量



世界規模でのCCSの実現

- IEAなどが指針とするGHG削減目標において、CCSの果たす役割は大きいですが、まだまだ十分な規模には達していない。
- 米国、英国、EU、日本、サウジアラビア、ブラジルなどが発表した目標が実現すると、年間数億トンの規模のCCS回収・貯留量を達成することができる。
- 世界全体で年間数10億トン規模を達成するためには、新興国や発展途上国での導入が大幅に増加する必要がある。
- CCSが必要とされる規模まで拡大するためには、最高レベルの安全性、環境管理、説明責任、地域社会の関与、社会的利益をプロジェクトに組み込む必要がある。
- 2030年の目標規模を達成するためには、開発中プロジェクトのリードタイムを短縮する必要がある。
- 投資促進を後押しする政策支援が必須であり、政府が果たすべき役割は大きい。

GLOBAL STATUS OF CCS 2023

レポートのダウンロードはこちらから：

status23.globalccsinstitute.com

お問い合わせはこちらから：

hiroshi.nambo@globalccsinstitute.com

(Global CCS Institute 南坊博司)